

会 議 録

会議の名称	平成29年度 第2回豊中市立図書館協議会		
開催日時	平成29年(2017年)11月7日(火)18時00分～20時00分		
開催場所	豊中市立千里図書館 4階集会室	公開の可否	㊦・不可・一部不可
事務局	読書振興課 岡町図書館	傍聴者数	4人
公開しなかった理由			
出席者	委員	渥美 公秀 天瀬 恵子 有本 恵子 岡田 初美 岸本 岳文 瀬戸口 誠 舟岡 直子 松田 美和子	
	事務局	北風岡町図書館長 須藤庄内図書館長 虎杖千里図書館長 松井野畑図書館長 山根岡町図書館副館長 永島岡町図書館副館長 河本岡町図書館主査	
	その他		
議題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 豊中市立図書館における中央館構想について 2. 図書館評価について 3. その他 		
審議等の概要 (主な発言要旨)	別紙のとおり		

平成29年度（2017年度）第2回図書館協議会

日時：平成29年（2017年）11月7日（火）18時～20時

場所：豊中市立千里図書館 4階集会室

出席者：（敬称略）

委員 岡田 天瀬 松田 岸本（委員長） 渥美 瀬戸口 舟岡 有本
事務局 北風 須藤 虎杖 松井 山根 永島 河本

開 会

資料確認

●委員長

お手元の次第に沿って議事を進めさせていただくが、ここで図書館協議会の運営方法について、委員の皆様にご了承いただきたい。図書館協議会の運営方法として、豊中市では原則として審議会を公開しており、傍聴については10人を定員にしているが、定員を超えた場合の傍聴者の人数については、その時の状況を見ながら私の方で判断させていただくということによろしいか。なお傍聴の方にはアンケートをお願いしており、協議会を傍聴されてのご意見等をお伺いし、特に委員の皆様にもお伝えすべき内容については、報告させていただく。

次に前回会議録については事前に送付されたものに委員の方々のご意見はなかったのので、公開の際にはお手元の記録と同じように、概要として発言者については個人名を掲載せず、「委員」とのみ表記することを了承いただきたい。

それでは、議事に入る。議題1は、前回に引き続いて豊中市立図書館における中央館構想についてですが、事務局に前回の会議内容を整理した上で説明をお願いします。

●事務局

それでは、資料1の説明をさせていただきます。

まず、図書館サービスの課題として、現状の体制での課題それに対して中央図書館ではどのような形になるか、ソフト面の組織体制とハード面の設備機能に分けて記載している。その横は、アウトカムとして得られる成果効果を記した表になる。

表を上から順に説明すると、最初の図書館サービス全般については、図書館全体の方針に基づき各館の人員によるプロジェクトチームで対応しているが、

全体としての取り組みが不十分なことが課題となっている。中央館構想がうまく機能すれば、企画立案からのオール豊中の事業実施が可能となる。人手が足りないときは、現状では地域館のエリア内で応援体制を組んでいるが、それだけでは調整が困難なことも多く、その場合は他の地域館への要請という形になる。この部分についても中央館構想ということになれば、よりフレキシブルな体制が整えられるのではないかと考えている。

PR・発信の面では、現在でも豊中全体として取り組んでいるが、それぞれ事業ごとに個々の担当者が発信する場面が多い形になっている。その辺りについては情報一元化による効果的なサービスが可能ではないかと考えている。資料提供の現状についても、同じような規模の図書館が多く、資料の分散化により多様な資料による比較閲覧が困難な状況にあり、中央館構想では入門書から専門的なレベルの資料・情報まで揃い、そこで目的に応じた利用が見込まれるのではないかと思う。今不足している閲覧スペースの確保、これも中央館の設備により改善できるのではと考えている。資料収集の面では、先ほどの資料提供のと同様に、中央館構想でより幅広い専門的な資料情報もあわせることで蔵書構成の幅が広がると想定している。

次の段のレファレンスサービスは、岡町、千里、野畑の3館で行っており、そのことにより資料と人材が分散する傾向にあり、それぞれの館の得意分野の蔵書により調整しながら解決する形をとっている。中央館構想で資料や人材を集約することによって、ワンストップサービスで専門的なレファレンスの機能が強化されるのではと考える。それと同時に、他のどの図書館でも受付ができ窓口としての機能をより充実させることで、中央館でレファレンスサービスを一括して実施することで、どこの館においても同様のサービスを提供できると考えている。

多様な学習機会の提供については、各館で事業実施しているところが多く、オール豊中として全館の調整が不足している状態と考えている。今後の展開として、図書館活用講座や情報検索・リテラシー講座などを通じて、より情報リテラシー力などを向上するためには、中央館の体制をどうするのかということやICT環境の整備というのも必要になってくるであろう。それからグループ学習・個人学習を問わず学習の場の不足している現状については、学習の場の提供だけでなく学習成果の発表の機会ということも含め、今後充実をはかっていきたい。

次に利用者に応じた図書館サービスの項目では、それぞれの利用者属性で区分しているが、全体を通して各館で事業ごとに窓口を分散している状況である。たとえば、乳幼児と保護者の利用サービスということで言えばブックスタート事業は庄内図書館が窓口になり、出前講座や子育てサロンなどの窓口は千

里図書館が行っている。そのあたりのことも、全域サービスの調整や統括といったことも含めた役割を中央館で担えるのではないかと思っている。

学校図書館支援については、読書振興課がブックプラネット事業を含めて調整統括し、図書館部分としては、地域館だけでなく分館も含め各館がそのエリアの学校図書館との窓口となり実際のレファレンスや学校図書館への団体貸出の窓口機能を果している。今後は、どこの学校図書館へも均質なサービスができる体制へ再編していくことが中央図書館の機能の一つとして求められていると考えている。

またボランティア活動等の促進という項では、地域特性に応じた市民協働事業ということで実施していることから、中央館機能に集約という形にならないと考えている。ただ、役所内の関係部局や関連機関等それぞれのところが窓口になっていることもあり、なかなか全体が見えにくい状態になっている。情報収集や関係団体等への情報提供および調整などについては、中央館の機能として捉えられると考えている。また職員という項では、今でも長期的な研修については全館調整を図って実施しているが、単発の研修については個々の図書館の実情で、参加者を決めているという面もあり、もう少し全館的で長期的な視野を持って人材育成を図っていきたい。

最後に施設面・設備面という面からは、自習席、駐車場、集会室というところになりそれぞれ不足しているところもあり、特に集会室機能については、もう少し具体的に一部有料化の検討など含め見直しを図っていく必要があると考えている。簡単ですが、資料の説明は以上です。

●委員長

前回会議で、図書館という枠というより市全体の市有施設の総合管理計画をもとにして、将来の豊中市の図書館のありようを考えていくというのが議論の前提になっていた。いわゆる中央館といったものがない中で、図書館活動全体でどういった課題があり、中央館的な機能によりどのように解消できるのかといった事を少しまとめたものが、今回出された説明資料である。見たところ現状でも取組めることがあるのではという気もしないではないが、そういったことも含めて御意見や御感想をお聞かせ下さい。

●委員

資料1の全般の上から2番目で「各館での人材固定化による応援体制の調整が困難」という部分で、困難なのは人材が固定化していることなのか、人材は固定化していてもいいけれど応援体制が困難なのか、どちらの意味なのかということと、それに付随して一番下の職員という項目で「長期的なキャリアパス

を意識した人材育成」というところだが、これは今、世の中で言われている人材のコモディティ化というみんな同じようなキャリアを持って同じような進路を歩いていく、商品であれば同じような商品が並んでいる似たり寄ったりで、わりと一本道に沿った長期的なパスなのか、それとも各人それぞれ個性や得意分野があり、バラエティに富んだ人材育成というものも考えられ、そうすると別にバラバラでもいいのではという考え方も出てくる。そういう意味で人材の固定化を目指しているのか、それとも中央で管轄するがバラバラにするのかというあたりが見えにくく感じている。

●委員長

この件について事務局から説明を。

●事務局

1点目の人材固定化による応援体制の調整については、たとえば千里図書館エリアでは千里図書館と東豊中図書館がそれぞれ地域館と分館という体制になっている。東豊中図書館から応援が必要になった時は、千里図書館の中で調整ということになるが、そこで人の段取りがきつい時には、次は岡町図書館、野畑図書館というように二重三重にやりくりしている状況がある。そういう意味で「人材の集中によりフレキシブルな人員体制」で、どの館でも何か人手が必要な場合だけでなくの要員要請にも対応しやすくなり、中央図書館からの体制で一本化ができる人員体制ととらえている。2点目の人材育成については、今のご意見のように必ずしも一本道ではないと考えている。基本部分や共通してキャリアアップする部分とそれぞれの専門性（レファレンスサービスや児童サービスなど）を発揮する必要がある業務により、状況に応じ長期の人材育成ということで、みんなが同じような道を積み重ねていく一本道というイメージでは考えていない。

●委員長

たぶん、どうしても応援体制というと頭数を揃えるだけの話になることが多い。今の話だと頭数を揃えるだけではなく、今日はこういう人が応援に入るほうが良いと言う判断をしようと思うと全体を見通して割り振りできる体制を作るほうが良いということだと思う。

●委員

前回の中央館構想については、ハード面ではなくどちらかと言うとソフト面の話だったと思うが、この表を見て思ったことは、すごく大きな建物ができて

人材も豊富に入ってみたいな印象を持ったが、今の状況からどうしてもイメージできない。本当に今のレベルを落とさずに中央館ができるのであればとても素晴らしいと思って読んだが、本当にそんなことができるのかというのがまず一番にあった。逆に言えば、これを作っていくために各館の機能が低下してしまうのは残念だという気がする。

また、課題を読んだ時に、これらの事は中央館がないための課題なのという疑問を持った。たとえば、庄内REKの取組みが全館で共有できていないのであれば、それは中央館がないからだというのは少し違う。これを見ると中央館に行けば全部解決できるという感じで、では中央館に行けない人はどうなるのかという思いがある。現状では、地域館でそれなりのレベルで色々なことをしているがそれを大事にしながら、統括するところがあるというのが良いと思う。ただ、この表のソフト面とハード面は現状に合っていないと感じている。

●委員長

一番望ましいのは、現状に中央館がある。そうすると、ここの機能が非常に活きたものになってくる、というのは当然のことだと思う。一回目の協議会の議論のスタートにあったのが、市全体の公共施設の総合管理計画で、どんどん新しい建物を作っていく状態ではとてもなく、一方で、既存施設の再編計画が出てくる、そうした中で図書館の今のレベルを保ったうえで効率的・効果的な体制をどのように組んでいくのか、そのためには何が必要か、といったところが議論の出発点になってくる。どちらにしても、単純にプラスする話ではなく何かを削り、その削ったものを削った以上に削った部分を含めてトータルで図書館全体をより効果的・合理的に動かしていくためには、今の状態を変えたほうがいいのではないかとというのが議論の出発点にあったと思う。

この表の記載は、前回の議論をもとに書き込んでいるが、取捨選択をしていかなければいけない部分もある。委員の話にあった、やり方を改善すれば今でもできることなどを含め、もう一度そのあたりの議論をしていく必要があるかもしれない。

●事務局

今でも出来る事は、すでに一部行っているが、それをより効率的にできる体制を築いていくために必要なことは何かということ、今全くできていないということではないと認識している。設備面に関しては、岡町図書館が中央館になるということではなく、一回目の資料でお示したように、岡町図書館が建築されてからが相当経って将来的に建替えという話になった場合、現状の9館体制を市として維持することは困難になってくる。その状況の中で、中央図書

館を核にした施設の再編が必要になってくるという認識である。これは、今の岡町のイメージではなく、まだ白紙の状態に近いが、将来に向けた図書館構想のイメージとある程度の道筋を持っていないと、施設再編の流れの中でこの先提案が必要になってくるとの思いが強く、そのための議論の場にしていただいている。

●委員長

とりあえず、今盛り込みたいことを盛り込んでおいて、最初から絞り込むよりは必要な部分をちゃんと入れた形で議論を進めた方がいいだろうという判断だと思う。

●委員

前回も同じような話をしたが、職員のキャリアパスということが大事だと思う。よく比較に出るがアメリカの図書館協会は、体系的な研修の機会が用意され、そこで図書館員の専門性が保たれている。一方で日本の場合は、どうしても自治体の職員で採用も図書館独自ではできない中で、そのあたりの専門性がどういう風に図書館員に認められるかというところと関係してくると思う。これは、直営や指定管理制度などの勤務条件とは別に、現状では長期的なキャリアパスになると、図書館協会や他の関連団体などで実施しているが、それらを豊中独自で情報集約し体系立て、職員の適正を見ながら研修を受けられる体制を作っていくことで、ハードにたよらない人材育成がある程度可能になると考えている。幸か不幸か日本の場合は、図書館協会がリーダーシップを発揮できる状況ではなく、どちらかといえば、図書館活動がんばっている図書館が主体となって人材育成の研修することが、ある意味では発信という形になっていく。たとえば、学習機会の提供というのは、ただコンピュータを整備することではなく、結局重要なのは人の問題だと思う。その人材の育成が、日本の図書館司書の問題として、今まで一番指摘されてきた部分でもある。そのあたりの展望を長期的に持ってやっていただきたい。

●委員長

今委員の話聞いて、日本図書館協会のある委員会で職員の議論していた時に、その専門職の集団をどうつくるかという話で、学校の先生の県単位の採用と同じように図書館も県単位の司書採用試験を行い、各市町村や県立に勤務する形にしてはどうかという議論をしたことがある。ただ図書館は、やはり町の図書館である。自分の町の図書館で何々さんという司書が仕事をして、その人が専門職だというのがすごく大きい。たぶん働く職員にとっても、その町の図

書館の職員であることが、非常に大事だろうなと思う。それを専門職の効率化だけで県全体で考えることが、地域の市民一人一人にとって、それは幸せなことだろうかと議論したことを今思い出した。そのあたりについては、豊中の図書館は比較的うまくやっていると思うが、それをもう少し職員一人一人の育ちの中で工夫してもらいたい。事務局のほうで何かありますか。

●事務局

図書館にとって、いかに「まちづくり」に貢献できるか、その意味では豊中市ということを意識したサービスを全館で大事にしているが、これからも重要な視点だと考えている。

●委員

前回の協議会は、研修が入り欠席したので、今回が初めてになる。さきほど町の図書館という話があったが、その通りだと感じている。認定こども園の職員だが、絵本は子どもにとって本当にかげがえのないもので心豊かにしてくれるものだと思う。地域に根ざした図書館があるということは、子ども達がすごく利用しやすく、何かの時に図書館に行き絵本を借りて帰ってきたりしている。こども園の行事などで必要な絵本を地域の図書館に依頼すると、資料が用意され借りに行くなど利用している。それは、図書館が地域に根ざしているということで、安心して利用させていただいている。個人としても子どもが小学生ぐらいまではよく図書館に通っていた。子ども達は、たくさんある本の中から絵本を図書館の通い袋の中に一杯入れて帰ってきて一緒に読んだりしていた。図書館が、やっぱり近くにあると通えるしすごくありがたかったと思う。図書館では、たくさん事業を実施しているということだが、子育ての場面で言えば、ブックスタートや絵本講座などは、地域の保護者にとってほっとできる安心した場所になっていると思う。中央館構想については、まだこれからだが、まずはデータの部分的な集約ということになるのかなと思う。先ほど申し上げたように、地域に根ざした図書館として、私たちが安心して使える場所であって欲しいと切に願っている。

●委員長

今委員の発言を聞いて、豊中の各館はいろんな意味で主体性が強く、それが非常にいい形で利用者に伝わっていると感じた。各館に主体性があるということは、各図書館にいろんな決定権限が委ねられ、それぞれの図書館で責任をもって決めてそれを実行していく形がきちんと出来ている。中央館構想で組織を一元化していくということは、その部分を削いでしまうことになると思う。

たことにならないかというのが、今の発言に含まれていたと思う。やはり今の良さをきちんと活かした上で、中央館組織としての一元化をうまく図っていかどうかは、各図書館の持っている自主的な活動をスポイルしない形になっていかないと、せっかくの豊中のよさを削いでしまうことになるのではないかと今の話を聞いて考えていた。

●事務局

中央図書館ができたとして、中央図書館とその他は全てサービスポイントという形には決してならないと考えている。豊中の図書館の大きな特色として、いつも申し上げているのは、市民との協働による図書館づくりや図書館運営ということは今まで非常に大事にしてきたし、これからもそれは大事にしていくことになる。それぞれの地域の図書館での協働のありようは、中央にまとめきれないものと考えている。その意味で、機能分化や効率化を考えると、地域で必要な部分を、シビアに一つ一つ考えていかななくてはならないと思っている。

●委員

学校図書館のところを見ていると、こうして欲しいああして欲しいという状況がある中で、中央図書館になったら充実するのかというのが疑問点である。

前提として、今あるよさは失ってほしくない、その中で中央館という集中した組織を作っていかななくてはならないということであるなら、どうすればそれが可能になるのか非常に難しい問題だと思う。勤務している小学校の職員から、理由がよくわからないが子ども達もよく行く服部図書館の書架が一行少なくなつてがっかりしたという話を最近聞いたが、単純に本が少なくなつたと子ども達は思うわけである。服部図書館は、中豊島小学校の子どもや緑地小学校の子ども、少ないかもしれないが四中の生徒などが利用していて、比較的子どもの利用が多いと思う。この話との関係はよくわからないが、そんな形になっていくのであれば、じっくり考えてそういうことがないようにお願いしたいと思う。それと、学校で豊中には図書館が9館あることを地図で説明すると、子ども達が夏の自由課題で自分の家からそれらの図書館へ自転車で出発して、何々図書館に行くには1時間10分かかったなどとまとめていた例もあった。図書館の特色まではまとめ切れていないが、全部回つたと自由課題をやってきて、そんな図書館のある町に住んでうれしいですとまとめていた。そんなことが、今後どうどうなっていくのかと考えながら聞いていた。中央館のことはまだ白紙だとのことだが、どうしてもやむなしであれば、やっぱり時間をかけていい形で地域の特色を活かした図書館として残る形を探してほしいと思う。

●委員長

あるパンフレットに、アメリカの図書館の数はマクドナルドの数より多いと書いているのを思い出した。豊中にはマクドナルドがいくつあるか分からないが、滋賀県内も大分図書館を作ったけれど、マクドナルドの方が多い。正直な話、そういった状況から見ると図書館の数が非常に多いとは言えない。しかし、私たちはそういったことを知り、押さえておかなければならないだろうという気持ちを持っている。

●委員

地域的に本を買ってもらえる子どもはたくさんいると思うが、それでも図書館に行く子どもがたくさんいるということは、図書館のよさがあるからだと思うのでそこは大事にして進めてほしい。

●事務局

図書館では、今分館の機能見直しをしており、その一環として服部図書館も利用実態に応じた本の見直しを行っている。服部の今のよさを活かしながら、一方で効率性も図っていき、今ある現状の資源をどう活かしていくのかという選択肢だと考えている。

●委員

この表の課題の欄を見て、中央館にしたらこの課題が全部解決するかいうとそうではないということを最初に思った。個々の項目で言えば、例えば資料提供のところだと、中央館が出来ればそこで全て揃えることが可能であるとのことであったが、言葉を返せば、そこに行かなければ閲覧できないということになる。集約すると便利になるだろうが、すべて集約することのリスクも考えておかなければならない。集めればいいというものではないと思う。また、課題のところにあるキーワードで、分散という言葉が数多く文章の後に記載されているが、分散していることが必ずしも課題であるとは限らないのではないかと。先ほど委員の話にあったように、図書館を地域に根ざしたところにしておけば、分散していることが課題ではなく強みになるといつも思っている。図書館で地域活動をしているが、ボランティア活動等の促進の項でも、各館に窓口が分散しており一括した窓口が必要という意味の事務局発言があったと思うが、地域のボランティア活動などに関しては、地域に根ざした課題を解決するために市民が集まって出来たものであるから、図書館の視点で横のつながりが必要だということと、活動する人がそれを第一義と認識していなければ、無理につ

なぐ必要があるのかと疑問に感じている。それと、この中央館構想についての主人公は誰かというところを見失ってはいけない。当然のことだが、主人公は市民活動をしている立場上、図書館ではなく、それを下支えしている市民一人一人ではないかと思っている。その視点で見ていくと、利用者に応じた図書館サービスの項目にある課題が、ほとんど一行で終わっているが、そこが一番大事な部分であってそこが抜けていることを注視する必要がある。中央館機能のことも大事だけれど、個々も大事ではないかということ、表を見て改めて強く感じた。

●委員長

やはり、今一度そこを取り出さなければならぬかなと、聞きながら感じていた。最初にレファレンスの話をすると、イギリスの図書館は、レファレンスライブラリーとコミュニティの中のレンディングライブラリーに分けられている。中央館がレファレンスライブラリーでレファレンスを行い、そのほかの館は基本的にレンディングライブラリーで貸出図書館のような形で機能している。ここでイメージされているのは、イギリスの図書館に近い形だろうと推測している。レファレンス機能が、現状のように分散すると全部の図書館に辞書やら事典を置く必要があり、同じ本を何冊も買わなくてはならないというデメリットもあり、様々な調べものは、レファレンスコレクションが揃っている中央館に機能集約することで効果的な運営が期待できるということだと思う。一方のレンディングライブラリーは貸出図書館であるからレファレンスしなくていいということではなく、職員のレファレンス力がより問われることになると思っている。そこにある中途半端な資料だけの回答ではなく、中央館できちんと対応し回答していると自覚しているなら、利用者がなぜどのように知りたいのかを聞かないといけなくなる。レファレンスコレクションを使って利用者の満足いく回答を持って帰ってもらうために、利用者にていねいに聞く能力がより一層必要になってくる。そういった意味では、各図書館のレファレンス力は向上していこうし、中央館のレファレンス担当者を交代していけば、実際の能力も高まっていく。地域館いわゆるレンディングライブラリーでレファレンスサービスをやらないというのではなく、中央館の豊富なコレクションを使って、利用者にきちんと責任のある回答をするというのが、ここでのイメージになるだろう。それ以外の部分については、委員の意見にあるように分散していることが問題なのかという指摘は非常に大切で、今の豊中のよきはある意味分散しているところにある、そこをどういう形できちんと継承していくかが大きな課題ではないかと感じた。

●事務局

その通りである。中央館が出来たからといって、すべてが集中体制でいけると考えてはいない。資料の点でも、ここに来れば本が揃うということについては、現状のように同じレベルの資料が地域館に分散蔵書するより、中央館で集中化することにより蔵書の幅が広がり、より深く資料提供が可能であるという意味で必要だと考えている。ただし、ほかの部分も、それですべてサービスダウンということではなく、それらのバランスも含めた上での中央館機能だと思っている。今ある9館というだけでなく、歩いて一キロ圏内というのはまだまだサービスでもれる部分もあり、その意味で、動く図書館や図書室なども含め全館の機能サービスを進めている。全域でサービスを高めていくという視点も合わせ持った中央館体制も、その一つと考えている。ボランティア活動の一括した情報共有については、市民活動全般に言われていることだが、図書館で言えば児童サービスや障害者サービスなど色々なテーマについて、個別に関わっているが、市民活動団体が連携することにより課題解決につながるような、情報提供やその機会というのも必要になってくる。それが、情報も含め集約化ができていないので、窓口を中央だけにするという意味だけでなく、各館に根ざしたサービスはその館に残るものもあるという意味合いである。それと、主人公は市民であるという指摘も本当にご意見のとおりで、そのことを忘れないために、この表にあえてアウトカムの項目を入れた。最終的なアウトカムは、市民の視点だけではないが、できるだけ市民の視点でより利便性が高まるとか、より図書館機能を果たすことで、市民にとっても多様なサービスが受けられるという視点も忘れないでこの議論を進めていきたいと考えている。

●委員長

たぶん利用者にとって図書館サービスで、中央館ができたという課題であった事が、今なぜできないのかということもたくさん出てくるだろうし、これを今までの図書館サービスで、中央館うんぬんではなくて、今やるべきことをやらなければいけないという気持ちの表れかなと思う。たぶん書き込まれていないということは、中央館を待っている話ではないと私は受け取っている。

●委員

前は欠席だったので、どのような議論でこの中央館構想になったのかその場において知っているわけではないので、的外れな意見になるかと思っていたが、だいたい他の委員と同じ感想であった。課題の中に分散、分散とたくさん出てくるが、中央館に統括するというのは一つの選択肢にすぎなく、分散していることは、各館が競い合い特色を出し合うことで充実する面もあるのかと考えている。

中央が充実して各館が空洞化したら一番ばかばかしいが、一方で個性や特色を各館で出すつもりが、結局は似たようなものしか出来ないのであれば、いまひとつであると感じている。これについては、詳しく存じているわけではないので、比喩的に2つ意見を言わせてもらおう。私に関わっている災害ボランティアも、まったく同じ問題に直面している。各地で頑張っているボランティアを、中央政府は統一する方向でまとめてもいいのではというようなことを言い出している。そうすると、規格に応じてこれとこれをやれば満たされるので、それがいいと言う人も中にはいる。しかし、第一線の現場にいと、決してそれでは満たされない部分があって、次の課題はその両方をどうするかということになる。ただ、考え方が根本的に違うところがあるようで、結局は被災者にとってどちらがいいのかということを決着が付きそうな気配になってきている。そういう風な話も似ているかなということと、それからもう一つ、よくある例で、避難誘導で多くの人を逃がそうとすると、中央で右ですよとか、左ですよとか、いうやり方か、近所の人と一緒に逃げようとするやり方のどちらがいいのかという話になるが、いろんな実験の結果、近所でローカルに判断した方がよっぽど生存率が高い、という結果もある。中央で全てを仕切られるというふうに、もし見えだしたら危険なところだろうと考えている。それこそ利用者と言いながら、僕は利用していない立場なので、より具体的に個別に言うことはできないが、この議論はあちこちにある問題で、ご意見がたくさん出たがこれをどう考えたらいいかというときに、少し分野違いの比喩も参考になるのかなと思う。分散していることが本当に課題なのか、分散しているならもっと分散させるという方向も含めるとか、あるいはレファレンスに限ってはそうするとか、図書館独特の議論があると思う。今は組織が動くときの一つの大きな分岐点にきているという印象でこれを読ませていただいた。

●委員長

今のご意見のように、組織が大きく動く一つの分岐点だとこれを捉えて、きちんと覚悟を持って議論を進めていくべきことだと、あらためて教えていただいたように思う。こうなったらいいよね、ということではなく、やはりいろんな状況のなかから一定の選択を迫られている、というのが、図書館の置かれている状況ではないかと思う。それに対し、一定の覚悟を持ってやっていく時に、どの立場で、先ほど委員がおっしゃったように、そこはきちんと市民の立場というのをまず念頭に置くということが、もう一度問い直されていると感じている。

●事務局

それは本当におっしゃるとおりで、組織としてその中央図書館ですべてが実

現できるというふうには思っていない。やはり豊中が今まで市民と一緒に築き上げてきたこの体制の良さを活かしながらも、一回目にお示した公共施設の総合管理計画にあるように、今後はこれだけの公共施設を維持管理するにはもう限界があるという豊中市の状況の中で、市として責任を持って工夫しながらどう維持管理していくのかということを図書館も同じ土俵で考えなければならない。今までのことを活かしながら、なおかつ、限られた予算と人員および本などの資源をうまく機能させていくためには、中央館機能は選択肢の一つとして考えている。

●委員長

少しスタンスというのが見えてきたように思う。もう少し時間をとってフリーに皆さんの御意見をお聞きしたい。

●委員

先ほどの委員長から指摘のあった、レファレンスライブラリーとレンディングライブラリーの話で、中央館をレファレンスライブラリーに特化して調べものの本を重点的に配置することで、たとえば、他の図書館でのレファレンス（調べもの）にも、中央館で専門職員が調べた資料類が身近な図書館で閲覧可能になると思う。そういう調べものの本は中央館に置いて、たとえば、子どもさんとか主婦の方がよく借りられる本や高齢者の方がよく読まれる新聞などは、それ以外の図書館（勝手にサテライト館と呼んでいるが）で閲覧・貸出しに回して、中央館には書庫も含め専門的な資料を置き、人材もレファレンス専門の司書を配置する。サテライト館では、よく読まれる本の閲覧・貸出だけでなく、催しなどのイベントも含め運営を任せることで一層活用されるのではないかと。先ほどのボランティアの話に引き寄せると、データベースがあれば、地域でボランティア活動をやってみたいという要望なども、中央館で調整しサテライト館で話し合ってみるかどうかを決めることも出来るのではないかと。これらのことを、前回も少し提案させていただいたが、そうすることで、本などの図書館資源が身近ですぐ手に取れ、中央館にあるよりは多くのところでたくさんの方が借りることができ、本が行ったり来たり、取り寄せられたりして、色々な館に架蔵され、結果的に多くの市民に手に取る機会が増えることになると思う。

●委員長

機能分割するというご提案の一つですね。他にご意見ありますか。

●委員

学校の立場からの意見としては、学校図書館への支援の項目で、課題のところ
に読書振興課が調整・統括との記載で、次の組織体制が学校図書館と市立図書館
との連携事業の統括になり中央図書館で主管する方向になっているが、学校図
書館は、学校の教育内容に関わる場所なので学校教育に関わる立場の人がい
る状況をつくっておく必要があると思っている。それとアウトカムに充実とい
う文言があるのはいいことだが、たとえば団体貸出で同じ本を複数冊リクエ
ストしても、実際には複本ではなかなか学校図書館にはまわってこないことが多
い。毎年授業に使う定番のような本は、学校で複本を揃えることもあるが、学校
でなかなか複本が持てない状況がある。そういう部分は、公共図書館で支援をお
願いできないかと思っている。それともう一つ、学校でこの本を購入するかどう
か悩む本が少なくない。たとえば、虐待を扱っていたり性的な問題の本であったり
、イラストがかわいいが不快な中身であったりという時に、公共図書館から借
りて手に取り、子ども達にもこれを読ませたいな、見せたいなとてなった時に、
購入するというのが理想だと思っている。ただ、公共図書館にもあまり多くない
と聞くが、そここのところも、これから考えていってもらいたいと思っている。現
状の要望みたいなことを言わせてもらった。

●委員長

学校図書館との関わりは、読書振興課ですか。

今の要望は、基本的には読書振興課で対応するのか。

●事務局

読書振興課には、学校教育に関わる立場ということで指導主事もおり、そこで
全体の統括を行っている。指導主事の配置は、本当に必要なことだと考えている。
その体制の課題というよりは、現状では、各学校図書館をエリア分けして担当館
を決め学校図書館への支援サービスを行っているが、エリアにより館の規模も
異なることから、今後再編する必要があると考えている。今はWEB上で受け付
けたリクエスト本を物流便で各学校へ配送することがほとんどで、直接の来館
ではない形でのサービスが可能となっていて、うまく機能していると理解して
いる。

●委員長

他にご意見は。

●委員

表の子どもと学校図書館の項目で、数年前まで「豊中市子ども読書活動推進計

画」で、子ども読書に関わる横のつながりがあり、子どもの読書に関する情報が共有されていたはずではとの思いが強く、それが課題にあるのに違和感があり、出来ていたのが出来なくなったのか、もともと出来てなかったのか、どうなのかなということ、最初見たときに思った。せつかく、「豊中市子ども読書活動推進計画」を2期10年やってきて、大阪府が策定した「第3次大阪府子ども読書活動推進計画」を、豊中は越えているという認識だったので、少し驚いた。

●事務局

出来ている、出来ていないで言えば、現行体制の中で役割分担をしながら、精一杯やっているというふうに認識しているが、やはり児童サービスの切り口の中で分散していることで、情報の一元化がうまく機能していないところも見受けられる。そのへんがよりスムーズに効率的に動き、全館で同じように温度差なく共有できるシステムということで、一つの館で全てのサービスを把握できているという仕組みは必要だと感じている。それは、児童サービスだけではなく、豊中のめざしている、乳幼児期から世代ごとにつないでいく図書館サービスのそれぞれの積み重ねに関して、サービスの計画を立て施策に落とし込んで実行していくプロセスから見ると、全体を視野に入れそれがよりはっきりわかる仕組みが必要であると考えている。

●委員長

たぶん中央館で総花的にするのは、ちょっとあぶない部分も出てきそうな気がする。やはり、そこはもう少しメリハリがあってもいいかなと思う。ある意味そうした中央館の効率性みたいなものを犠牲にしても、きちんと守っていくべきことは、そちらのほうを重視しましょうという姿勢も必要ではないか。中央館が出来たらこうなりますよ、というメリット部分についても、全部そっこのほうに、やらなくてもいいかな、と。そこは今の評価も含めて、メリハリをつけたほうが、より利用者の目線に立ったものになるとの指摘だったと思う。

●委員

職員の項目で、「主に各館で研修参加の調整をしているため、全体的な調整の不足」と課題にあがっているが、中央館にしなくても、研修というのはとても必要なことだと思う。すばらしい職員がいる市というのは、市としてもとても大切な財産になるので、中央館構想にかかわらず、ぜひ力を入れてやっていただきたいと市民の立場から思った。

●委員長

その通り。やはりトータルにそれぞれ個々の職員を大事にしてキャリアパスは管理してほしい。中央館ということではなく、何らかの形で一人一人の資質を見据えた上でやるべきだという指摘は、そのとおりだと思う。市民の立場と一人一人の職員の育成は、セットになってくるので、中央館機能には、あまり入れないほうがかえっていいのかな、と今感じている。他に何かあれば。

●委員

中央館構想だが、これは中央館で管理できるデータベースを構築しそれを活用することで改善できる面も多いと考えている。もちろんスペースをとまった話は別にして、分散の課題として記載されていることについては、最大限必要なデータがデータベースで閲覧できれば6割程度は解決されると思う。本当に人材の集中が必要な部分などと、機械的にシステム化することで対応が可能な部分とに分けたほうがいいような気がしている。

●委員長

たぶん、色々な意味で情報の共有のための工夫、データベースも一つの方法だし、現状での各館が主体的にやっているというメリットを活かすためにも、より一層の情報の共有の仕組みを、今きちんと考えておかなければならないかもしれない。

●委員

個人的な感想だが、学習機会の提供という部分で、情報リテラシーを高めていくのは重要だと認識しているが、最近特にソーシャルメディア的なものがすごく普及しているが、他の研究者も指摘しているように、同じような考え方の人同士だけで固まり、それと異質な人や考え方とのふれあいが極端に減っていると感じている。インターネット草創期は、多様な人とのつながりが出来ると言われていたが、逆の結果を生み出しているとしばしば指摘されている。図書館はそういう意味では、多種多様な蔵書もそうだが、さまざまな人と交流できる機会を提供できる可能性を、公共施設の中で一番有していると考えている。従来の情報リテラシーは、コンピュータの利用方法が中心になっていたが、それより、図書館がコーディネーターをするなりして、利用者がいろんな形で主人公になって講師的な役割を担い、交流する場を図書館で設定できたらと思っている。自分とはちょっと違う世界とか、業界で生きている人とか、年代もぜんぜん違うような人と、交流する機会があると、図書館の良さも出てくるのではと考えている。そういう意味での学習機会の提供がオープンな図書館だからこそ、出来る可能性がある。

従来の図書館が用意したものではなく、利用者を巻き込んでやっていくことが大事になり、ある意味「まちづくり」にも関係してくると思う。そういう可能性を図書館は持っているのではないかと考えている。

●委員長

今のご意見について、図書館で何らかの工夫や取り組んでいることがあれば紹介してください。

●事務局

図書館事業の一番の特色は、異年齢の人が参加されるということで、高齢の方が若い方の意見を聞いて、今の若い人達はきっちり物事を考えているみたいな感想をお聞きしたりすることがある。たとえば、学校で子ども達で作った作品を図書館で掲示することもあり、リアルに子ども達で作った物を地域の大人が見て、地域の子どもの力を再認識するとか、そういう人との出会い、資料情報との出会いというところは、(仮称)南部コラボセンターで求められている図書館の機能でもあると認識しているので、今後そういうところについては、多様な取り組みとして、図書館だけではなく様々なところと連携して仕掛けていきたいと思っている。

●委員

皆さんのご意見を聞きながら、その通りだと思いながら聞かせていただき、中央館のことについて、徐々にイメージもふくらんできた。市民がそこで交流でき、いろんな本に出会える場になればいいなとすごく思う。

●委員長

図書館の一つの働きとして、場の力というものがある。図書館という空間が持っているという意味が非常に大きなものがあって、最近再認識されるようになった。異質なものととの出会いが具体的にある場所という意味合いになると思う。

●委員

資料収集・保存のアウトカムで、蔵書構成の幅が広がり満足度が向上と記載されているが、調べ物というのは、人によって求めるレベルが違う、すごくハイレベルなことを調べたい人と、少しわかればいい人と、すぐ知って納得して帰りたい人と、時間かけてもいいから正確にたくさんの情報が知りたい人などそれぞれあると思う。蔵書構成の幅が広がり満足度向上をめざす時、どういうレベルの人に対しても、満足できるようにしてもらいたいと思っている。個人的には、早

く知りたいというより、時間かけてもいいから正確に多くの資料があればいいと思っているが、人によって知りたいことの幅は違うので、それについても、きめ細やかな対応ができればと思う。

●委員

考え方の問題だと思うが、総括すれば課題と記載されていることを疑うことになるのではと思っている。これは、本当に課題なのかということと、その課題への対応が、財政とか、必要に感じている中央図書館機能など別の理由から、アウトカムが出てきているのではないかということだろうと思う。普通なら、中央とか考えずに課題を考えて、理想としてのアウトカムが出てくればいいんだが、むしろ今回は逆のように感じた。中央図書館機能になったら、どんな課題があるかということ分散ということになる、それでうまくいく場合もあるので個別のことは言えないが、考え方として順序を逆にしてみるとか、課題を疑うということをやってみることで、よりよいものに整備できるのではないかの印象を持った。

●委員長

なぜこの議論をやっているのかということ、少し整理したほうが良いと思う。中央館だけ前に走りすぎると、本来の目標があいまいになりかねないので、今回の中央館構想についての議論をふまえ整理をしていただきたい。

●委員

以前住んでいた場所の図書館では、飲んだり食べたり自由に騒げるスペースが図書館に併設してあって、書道をやっている人とか、小さい子どもがその回りを走ったり机の下にもぐったり、その横ではお母さんたちが談笑しながら昼ご飯を食べている風景があったりした。図書館というところはどうしても喋ることができないので、交流しにくい。そういう自由なスペースがあると、バラエティに富んだ人材交流ができるのではと思います、ちょっとだけ紹介させていただいた。

●委員長

それでは議題の2に進みたい。

●事務局

議題の2 図書館評価についてですが、本日の配布資料はありません。今後の予定という事で、お知らせする。図書館協議会の臨時部会として図書館評価部会を、

11月21日（PM3：00～PM5：00）千里図書館で1回目を開催する予定。今年度中に計4回開催し、本体である図書館協議会で報告いただく計画で、現在準備を進めている。今回の評価部会は、図書館の5年間の取り組みを振り返り、この間の図書館の自己点検評価とこの8月の後半に各館で実施した来館者アンケートなどを材料として外部評価を行う。この図書館評価部会は5名の委員で構成され、図書館協議会からは2名、部会長として瀬戸口委員と天瀬委員が委員長から指名されている。ほかの3名は、市民公募委員1名と豊中商工会議所から1名、豊中市民活動情報サロンの受託NPOからの1名になる。図書館評価については以上です。

●委員長

前は平成24年度ですか。

●事務局

はい。スタートした時点では、3年で外部評価を行う形で2サイクル実施したが、その間に豊中市立図書館中長期計画（略称グランドデザイン）を策定、これは今後10年間に豊中の図書館が重点的に注力するところを示した計画である。教育委員会の評価システムや市の総合計画に基づいた評価の仕組みなどもあり、様々な計画に基づいた進行管理、進捗状況の把握が同時にいくつも必要になった関係で、図書館の外部評価のサイクルを3年から5年間に延長した。前回は24年度で5年経過したので、29年度に外部評価委員会の開催という流れになる。

●委員長

年度内に4回開催し年度末の協議会で報告となると委員の方も大変ではないか。

●事務局

24年度の評価では、次年度の1回目の協議会で報告していただいた。走り出してみないと、どうなるかわからない部分もあると思っている。

●委員長

あと5ヶ月ほどしかなく、また5年分のデータ量を読み込むだけでも大変だが、ご苦勞をおかけするがよろしく願います。

●瀬戸口委員

外から見た視点で、ほかの公共図書館の事例等を参考にしながら、豊中独自の図書館サービスの実情を見ながら総合的にいろいろ検討していきたい。よろしく願います。

●委員長

議題3のその他の説明をお願いします。

●事務局

その他について説明する。当日資料で庄内幸町図書館での図書館サポーター募集のチラシを配布している。これは庄内幸町図書館の機能変更をこの11月に実施し、11月1日より週3日の開館とするとともに、2階を自習および新聞閲覧のためのスペースとしたことから、安全安心に地域の方がご利用いただけるよう見守りサポーターを募集することになった。来館者数のカウントや職員・警備員との連絡などをお願いする予定で、活動中はサポーター専用席を確保しご自身の学習や読書をしていただく時間としている。実施は来年1月からの予定。また庄内図書館で本の修理などを行う図書館サポーターの活動が半年を経過したことからアンケートを実施し集約した。8人の方のうち、3人の方が大いにやりがいを感じ、あとの5人の方も少し感じられるとのお声であった。図書館について理解や親しみが深まったか、という問いに対してはおおいに深まった2名、やや深まった3名、以前と変わらないが3名との結果となった。庄内図書館の3階オープンスペースなどで作業をお願いしているが、様々な年齢の方が関わっていることで色々な交流の場になっていると思っている。そのアンケートに、今は月1回だが2回ぐらいに増やしてもらえたらという声が沢山あったことから、本の修理等のサポーターについても来年1月より月2回にする予定にしている。

次の資料は、広報豊中の11月号のコピーを配布させていただいた。

巻頭カラー版の6ページで図書館が掲載され、おはなし会から広がる交流や、北摂地区の広域利用の開始、移動図書館、インターネットサービス、課題解決支援サービスなど図書館で現在実施している多用なサービスについて、ビジュアル的にもとても見やすい内容となっている。

最後に、とよなか音楽月間についても、10月半ばから始まっており、そのパンフレットも配布させていただいた。主管は文化芸術課だが、図書館でも関連本やCD、レコードなどの展示や、あるいはレコードを使ったコンサート、庄内図書館が事務局となっている「しょうないREK」による、世界の音楽ワークショップなど図書館が関わる事業も数多く記載されているので配布させていただいた。

配布資料の説明は以上です。

●委員長

事務局説明で、ご質問、ご意見等あればお願いします。

●委員

図書館サポーターは、今後他の館にも増えていくのか。

●事務局

そういう要望があれば、これからの状況を見て他の館でもやっていく所が出てくると思う。現状では、庄内図書館・野畑図書館の2箇所で、本の修理やCDの装備修繕もお願いしている。参加者の方も本の修理がとても楽しいとか、手を動かしながらいろんなお話をしながら進めていただいている。他の館から出来栄えについて、きれいな仕上がりで非常に満足しているとの話を、サポーターに伝えると、大変やりがいを感じたとのことであった。実際にやっていただいたことが、どう反映されているのかというフォローアップも、サポーター制度の中で大事な部分だと感じた。

●委員

コンテストみたいな何分以内やったら優勝とか面白いですね。

●委員長

以上で第二回豊中市立図書館協議会を終了する。

次回は来年の2月ぐらいの予定。